

総務文教常任委員会会議録

- 1 日 時 平成28年12月13日(火)
13時40分開会 13時59分閉会
- 2 会議場所 役場3階第1委員会室
- 3 出席議員 委員長：高橋政悦 副委員長：鈴木孝寿
委 員：北村光明、木村好孝、口田邦男、中島里司
議 長：加来良明
- 4 事務局 事務局長：佐藤秀美、係長：宇都宮学
- 5 説明員 なし
- 6 議 件
 - (1) 意見書の協議について
 - ・ JR北海道への経営支援を求める意見書
 - (2) その他
- 7 会議録 別紙のとおり

議件（1）意見書の協議について

・JR北海道への経営支援を求める意見書

委員長：（高橋政悦）総務文教常任委員会を開催する。「JR北海道への経営支援を求める意見書」について協議する。文案について一読いただくために休憩する。

【休憩 13:40】

【再開 13:45】

委員長：再開する。道議長からの提出要請のため、所管の委員会である総務文教常任委員会で提出するかどうか協議するところである。これまで、議長会からの提出要請であれば提出することが慣例となっている。他の町村もほとんど提出しているという状況であることを申し添える。各委員の意見をいただきたい。もし、国がJR北海道に対して経営支援をすることになれば、この内容からいくと半永久的にやっつけなければならぬことなので、それは少し難しいという気がする。だからといって、それがなくなってもいいことにはならないところもある。

北村委員：旧国鉄が分割民営化されたのは国策として行われたので、民間の収支を基本とした会社運営ではこういうことになってしまうことはある程度想定されていた。国の経営安定化基金も何年かすると取り崩されてどうにもなくなると言われていた。北海道においては鉄道事業だけでは収支は困難であることは分かっており、経営安定化のために、既存の公共交通である線路を廃線することについては容認しがたいので、国の責任を求めていくことは基本的には賛成する。一方では、北海道新幹線の建設も国策として進められてきたようなところもあり、それができたゆえに収支がさらに悪化し、並行している在来線が廃止になるという可能性も否定できない。そこも含めて国として何らかの対応をしなければならない。方策についてはいろいろあると思うが、例えば、JR東日本の子会社化などを含めて考えていく必要があると思うので、そういうことをやってもらいたい。単に財政的支援だけではだめではないかと思う。

委員長：今の北村委員の意見からすればこの意見書の内容だけでは事足りないということ。この意見書の中身では提出する必要がないということではよいか。

北村委員：議長会の要請には沿っていきたいと思うが、このままでは弱いかと言う感じがする。

鈴木委員：清水町として考えると、JR北海道との共存は切っても切れない関係。町のために経営支援を求める意見書を出すことはいいと思う。ただ、資料にもあるようにJR北海道の営業路線のおよそ半分が単独では維持が困難であることについて、全国の国民から見た時には無理なものは無理でしょうと言うと思う。そんなことを言っていたら地方は成り立たないという話も当然出てくるが、現実的に税金の垂れ流しになっていくことを考えると心が痛い。国土の健全なる保持のために必要であると認識した上でこの意見書を可としたい。いろんな付け足しをするよりは、いろいろな意味をこめて、清水町との関係を重視していく上ではこの文面のまま出すことが逆にいいと思う。

木村委員：JRそのものの困難性は初めからわかっており、そのことを認めながら今まで進めてきた。もちろん、私個人的にはJRの経営能力自体も問題はあると思う。あまりにも依存しすぎたということもあると思うが、これからの地域のことを考えたら、片方では経営的に赤字がはっきりする新幹線を通して、片方

では地域の足を切り捨てるということは同じ国民として不平等ではないか。不十分さはあるかもしれないが、その一つ一つを意見として周知していくことは地域としては必要ではないかと思う。

中島委員：意見書の文面については現段階ではこれなのかなと思う。先ほど、新幹線や経営のあり方、合併などの話があったが、会社の経営に対して意見書を出すことは好ましい形ではないだろうと思う。そういうことを考えるとこのような文面に現段階では納めざるを得ないのかなと思う。北村委員、木村委員の言ったことは現実だと思うが、意見書の中にJRの経営的な部分を触れることは難しいと思う。

口田委員：本町のことだけを考えれば出す必要がないと思うが、全道的な視点で考える必要がある。利用者が利用しないのが一番の原点なのでそこも考えながら今後いろんな面で進めていかなければならないと思う。このようなことから、この意見を出すことでいいと思う。

委員長：概ねこのまま出すのがいいという話であるが、現在清水町は災害を受け、いろいろな意見書や要望書を出している最中。自分のところが大変なのに、JRのことを考えるという余裕を持った態度でよろしいかどうか。そういう常識的なところでその辺のことを鑑みて皆さんの最終的な意見をお聞きしたい。

北村委員：全道的にこういった意見書を出すことはいいが、そこだけにスタンスを置くと、自治体に財政的な支援を求められた時に、どうなっていくかという心配が一方ではある。清水町が関わっている根室本線は当面廃線の話は出ていないが、だからといって関係ないというふうには行かない状況も出てくるのではないか。もう1つ言うと、池北線の歴史的な経緯を考えると、自治体がお金を出して運営をしてもいずれは鉄道部門からバス分門への転換という道をたどる。バス路線もいずれ経営が成り立たなくなり利用しづらいという状況も出てくるのではないか。一方では、交通政策として道路のインフラ整備はどんどんされており不公平なので、総合的なバランスを考える必要があると感じている。基本的にはこの意見書を提出することには賛成だが、こういうことも考えながらやった方がいいと思う。

委員長：出た意見をまとめると、今後とも問題はなくなりほしくないが、今現在ではこの議長会の要請のとおり意見書を提出することでよろしいか。

(よろしいの声あり)

委員長：そのように決定する。意見書については12月定例会の最終日に提案できるよう全員協議会に諮りたいと思う。

(2) その他

委員長：その他について何かあるか。

(なしの声あり)

委員長：定例会終了後にご参集ありがとうございました。以上で、総務文教常任委員会を終了する。